

「Freestyle」と「Mira」を発表するビル・ゲイツ氏

“デジタル”で瓦解する家電市場の垣根

2002 International CESレポート

1月8日から11日まで開催された世界最大の家電の祭典「2002 International CES」は世界106か国から、約10万人の入場者が訪れ、例年以上の盛況を見せた。厳重な警備はあったものの、予想された米国同時多発テロの影響による入場者減はほとんどなかったといっている。

会場の入り口には2001年11月にサービスを開始したXM satellite Radioが大きなバルーンを掲げたが、昨年末にフォーチュン誌が同社に“Product of the Year”



衛星ラジオ局Siriusのブースに登場したロックグループ、チープトリック。

賞を贈ったこともあってか、今年は特に衛星ラジオ局のブースが目立った。日本では多チャンネル、広範囲をウリにしたCSデジタル放送はさほど好調ではないが、国土が広く車社会の米国では100チャンネルのプログラムを広範囲にCD音質で展開できることが大いに受けており、ほかにもSiriusなどの衛星ラジオ局が大きな注目を集めていた。XMは日本にもオフィスを出し、日本のカーラジオメーカーも数多く対応製品を出展していることから、近いうちに日本でもサービスが開始される可能性もある。

マイクロソフトの新コンセプト

しかし、それ以上に会場を湧かせていたのはCES開幕の前日、基調講演の壇上に立ち、家電分野における今後のウィンドウズの展開を披露した米マイクロソフトのビル・ゲイツ会長だ。

彼はここで、「Freestyle」と「Mira」という2つの新コンセプトを発表した。「Freestyle」とはウィンドウズXPをベース

にしたインターフェイス技術のプロトタイプで、家庭内にある音楽や映画などのコンテンツやAV機器を家電のようにシンプルなインターフェイスで管理したり操作したりできるものだ。対応する機器についてはIceBOX社など数社がすでに会場内でデモ機を展示していた。

さらに講演では新コンセプトの薄型ディスプレイ状のタブレット型デバイス「Mira」に、このインターフェイスを表示し、さまざまな場所からコンテンツを操作するデモを見せていた。「Mira」にはウィンドウズCEと「Freestyle」が組み込まれており、キッチンや書斎などのさまざまな場所で、テレビなどの家電やパソコンをワイアレスにコントロールできる点が特徴となっている。

この2つのコンセプトを見てもわかるように、同社は家庭内にある家電のネットワークをウィンドウズのもとに1つにまとめてコントロールしたいという意向を持っている。これは「ウィンドウズベースの家電リモコン」への第一歩と言えるかもしれない。

PDAと携帯は融合で特殊機能を持つ

PDA、携帯電話の分野では“ Digital Convergence ”を進めながらもそれぞれ独自の方向性を打ち出している製品が多く見られた。特に“ キーボード ” “ ワイヤレス技術 ” “ GPS ”を携帯電話とPDAに融合させるという方向性が大きなトレンドだ。

また、ビル・ゲイツ氏の基調講演では、どこからでもワイヤレスでインターネットにアクセスし、コンテンツを利用することができるウィンドウズCE.NETが発表された。今後、このウィンドウズCE.NETを搭載したPDAがCASIO、ソニー、日立、サムソンなどのメーカーからリリースされる予定だ。



- ① SANYOの携帯電話のコンセプトモデル。メガネ型に変形させて映像を楽しめる
- ② メール機能に特化したDangerの「Hip-Top」
- ③ 独特のフォルムをもったNational Semiconductorの「Origami」

急浮上するサムソンの存在感

家電メーカーとして、今回いちばんの注目を集めていたのは韓国のサムソンだ。初日の基調講演に登場した同社のCEO陳大濟氏は「誰でも、どこからでも、時間や空間に制限されることなく自由に楽しめる“ Digital Freedom ”がキーである」と発言し、「それを実現するのが“ Digital Convergence (デジタル融合)だ」と主張した。この“ Digital Convergence ”というキーワードは今回のCES全体を覆う最大のトレンドとも言えるだろう。実際、会場内のそこかしこには、たとえばセットトップボックスとDVD、CDと通信機能といった具合にデジタル技術をベースに、これまで別々の製品であったものを統合し、新たな価値を提案するという主旨の製品が溢れていた。

サムソン自身も“ Digital Convergence ”を実現する製品として、家庭の全映像および音楽メディアのゲートウェイとなるうえ、

巨大なハードディスクも備えるウィンドウズベースのホームサーバー「Home Media Center」を披露した。これは、パソコンの無線LAN基地になるのに加えて、別々のテレビにそれぞれ異なる映像を流すこともできるものだ。ほかにも携帯電話とPDAを統合した「スマートフォン」やウィンドウズCEを搭載し、内蔵CDMAや後付けの802.11bモジュールでインターネットに接続できるワイヤレスハンドヘルドPCの「Nexio S150」を披露した。これはすでに韓国では発売されており、米国でも数か月以内に発売する予定だという。

これまで、日本の後追いと見られていた韓国勢だが、ITバブル崩壊の余波で地味めな他社の基調講演を尻目に、飛び抜けて景気のいいパフォーマンスでこうしたコンセプトを見せたサムソンの存在感は圧倒的だった。今後の韓国家電メーカーの躍進を予感させたという意味でも重要な講演となっていた。



“ Digital Convergence ”を謳うサムソン陳大濟CEO

生まれ変わるアプライアンスの潮流

もう一つのトレンドは「アプライアンス」だ。ただし、3comのAudreyや米SonyのeVillaのような、これまで数多くの失敗を見てきたパソコンのサブセットのことではない。たとえば音楽を聴いたり、テレビやビデオを見たりといった「ある目的に特化したネットワーク機器」のことだ。

なかでも、CDやラジオ、ネットワーク上のMP3といった音源の違いを意識することなく聴いたり録音したりできるデジタルジュークボックス製品には注目、ポータルサービスのOpenGlobeや、さまざまな機器メーカーにソリューションを提供するGracenote、機器とサービスを提供してい

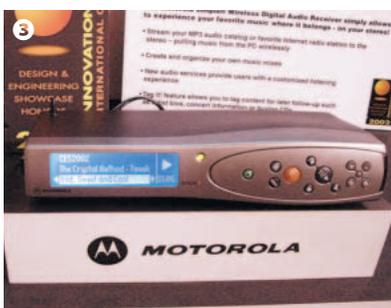
るXIVAなどが出展していた。ちなみにOpenGlobeのサービスはCompaq、Kenwood、Escient Convergenceが販売する専用機器を買えば、あとは月額費もなく自由にポータルから音楽をダウンロードして楽しめる。映像系ではデジタルビデオレコーダーとネットワークの統合が主流で、TiVoやreplayTVといった老舗が出展していたほか、WebTVの設立者スティーブ・パールマンが設立したMoxi Digitalが、展示はなかったものの、セットトップボックス「Moxi Media Center」に集積された音楽、映像、静止画を無線LANで4台のテレビにそれぞれ違うコンテンツを配信できるという新サービスの発表を行っていた。



- ①サムソンのペン入力タイプPC、「Nexio S150」
- ②サムソンが発表した「Freestyle」を採用した「Home Media Center」
- ③マイクロソフトの「FreeStyle」を組み込んだデバイスが同社のブースには展示してあった
- ④HALの「HAL2000」は音声で家庭内のネットワークをコントロールする
- ⑤キッチンでの利用を考えたデバイス「IceBOX」



- ① TiVo社のセットトップボックス
- ② SonicBlue社のHDDレコーダー「Rio」
- ③ モトローラのデジタルジュークボックス
- ④ OpenGlobe社のポータルサイト



カギとなる家電の王様“テレビ”

家電の祭典だけあってLCDやプラズマの大型テレビを各社が競って展示していたのが印象的だ。スーパーセッションに登場したサーキットシティのCEOアラン・マッカロー氏は、これら新しいカタチのテレビについて「ようやく踏み出したが、まだ普及には時間がかかる」と述べたが、おそらく今後数年で、デジタルテレビへの買い替え時期が来るであろう。家電の中心とも言えるテレビがデジタル化されたとき、それに付随するAV機器もデジタル化され家庭内ネットワークが加速するのは間違いない。2日目の基調講演に立ったPHILIPSのジェラルド・クレステレスCEOは、2020年には音声で窓の景色を変える指示をしたり、鼻歌で思い出の曲を検索して聴いたりできる時代が来ると断言していた。これまで、どうしても「遠い未来の夢物語」のようにしか感じられなかったホームネットワークだが、パソコン的IPの世界ではなく広くデジタルという枠で捉えた場合、案外そう遠くない将来に少しずつ家庭に浸透してくるかもしれないとも感じられた。

米Sprintが世界2番目の3Gキャリアになる

CES2002の基調講演の最後を締めくくったのは米Sprintのウィリアム・エズレイCEOだった。彼は壇上でこの夏にもPCSによる、最高で144Kbpsの3Gネットワークを立ち上げ、さらに向こう2年間でこのネットワークを3Mbpsにまで引き上げると発表した。

そのほかSANYOや日立と提携し、3Gネ

ットワーク対応の携帯電話をリリースすると発表。基調講演では、この3Gネットワークで提供される映像コンテンツ、ゲームコンテンツなどのデモが行われた。



- ① 米Sprintのウィリアム・エズレイCEOは夏にも3Gネットワークを立ち上げると発表した。
- ② Sprintの3Gネットワークを使って動画を見られる「iPAQ」
- ③ SANYOが発表したSprintの3Gネットワーク対応携帯電話



超高速通信網で研究開発を加速

10Gbpsで研究所や大学を結ぶ「スーパーSINET」が稼動

文部科学省国立情報学研究所は、超高速光通信網を使った研究用ネットワーク「スーパーSINET」の運用を1月4日に開始した。

スーパーSINETは、ルーティングまで含めて完全に光化されたネットワークで、日本各地の研究機関を光波長多重通信(WDN)と光クロスコネク(OXC)で結び、先端技術研究の通信基盤として使われる。

通信インフラは、日本テレコムが提供する30波長の帯域を持つ光伝送システムを使用する。このうち、10Gbpsの帯域をインターネット接続用に使い、このほか1Gbpsの帯域を研究機関のピアツーピア接続に使用する。

当面は、バイオインフォマティクス(生命

情報学)、高エネルギー物理学、宇宙・天文学、分散コンピューティングのなどの研究に使われる。これにより、実験で集められた大量のデータを、間引くことなく研究機関に配信できるようになる。

会場には、文部科学大臣政務官の加納時男氏が登壇し、スーパーSINETを「世界最高レベル」とアピールするとともに、技術立国日本の再生を力強くスピーチした。

情報学研究所は、スーパーSINETによる産官学の連携で、日本の高度な情報通信ネットワークの構築を図り、学術研究の発展を目指す。なお、スーパーSINETは「e-Japan重点計画」で取り上げられており、2001年度の予算として約15億円が計上されている。



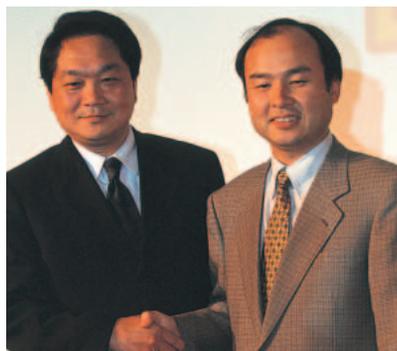
左から2番目が日本テレコム最高顧問の坂田浩一氏。中央が文部科学大臣政務官の加納時男氏

Jump www.nii.ac.jp/index-j.html
(文部科学省国立情報学研究所)



「孫ビジョン」実現へ向け邁進するヤフー

Yahoo! BBの「コンテンツ戦略」が姿を見せる



ヤフー会長の孫正義氏(右)、SCEI社長の久夛良木健氏(左)

Jump www.yahoo.co.jp
(ヤフー)

Jump www.scei.co.jp
(ソニー・コンピュータエンタテインメント)

ヤフーは、ブロードバンド事業の一環として、VoIP技術を使った電話サービス「BB Phone」の試験サービスを開始すると12月18日に発表した。

BB Phoneは専用のターミナルアダプターを使って電話機をIP網に接続する。料金は、日本国内全域と米国向け海外通話で3分7.5円の均一料金を実現する。また、BB Phoneユーザー間の通話は無料だ。バックボーンにはYahoo! BBの回線を利用する。

この2日後、12月20日にヤフーはソニー・コンピュータエンタテインメント(SCEI)と、プレイステーション2(PS2)向けのブロードバンド事業で提携することを発表した。

これにより、ヤフーはPS2ユーザー向けのポータルサイトを構築する。また、家庭用ゲームのオンライン販売や、音楽、映像の販売ポータル制作を担当して、決済には

SCEIが開発した決済システム「DNAS」を活用する。サービスの開始は2002年春ごろの予定で、料金は未定だ。ソフトバンクグループの孫正義代表は、「オンラインゲームを楽しみながら、BB Phoneで料金を気にせずに通話する定額ならではのライフスタイルを提案する」と発表した。

さらに、愛知県大口町と共同でBB Phoneを同町の全域に導入することを12月25日に発表した。具体的には2002年5月をめどに、大口町の全世帯と法人、公共施設にBB Phoneを導入する。

BB Phoneやオンラインゲームなどの付加サービスにより、Yahoo! BBは客単価の上昇を狙う。設立当初から、Yahoo! BBは接続サービスではなくコンテンツサービスにより利益を確保するモデルを発表していたが、ようやくその形が姿が具体化し始めた。

ようやく見え始めた「.NET」の全貌 マイクロソフトが「.NET My Services」の国内早期評価を開始



マイクロソフト代表取締役社長の阿多親市氏も発表会場に駆けつけた

Jump www.microsoft.com/japan/developer/net/
(MSDN Online .Net Information)

マイクロソフト社は2001年12月17日、同社の次世代インターネット戦略である「.NET」のソフトウェア基盤として提供を予定している「.NET My Services」(開発コード名HailStorm)に関する説明会を行った。「.NET」の方向性を示すコンファレンス「Microsoft .NET Developers Conference 2001/winter」の開催に先立って行われたこの説明会では「.NET My Services」の日本国内での事業展開に向け、JR東日本情報システム、JTB、ニッセン、NTT東日本の4社と協力し、同サービスの早期評価を開始することが発表された。

「.NET My Services」は、ウェブサービスを利用する際に必要となる、ユーザーのプロフィールや連絡先、スケジュールなどの個人情報をインターネット上に保管し、さまざまなデバイスから取り出せる点が最

大の特徴だ。これを上記の4社が導入することにより、JR東日本は旅行者に向けたポータルサイト、JTBはツアー予約サイト、ニッセンは通信販売サイト、NTT東日本はビデオ予約配信サービスサイトを、さまざまなウェブサイトを連携させて提供することを目指す。

そのほか、米マイクロソフト社の開発者およびプラットフォームエバンジェリズム担当シニアバイスプレジデント、エリック・ラダー氏が壇上に立ち、ユーザー認証サービスとして「.NET Passport」を提供すること、サービス事業者に対して「.NET My Services」のソフトウェア開発キットを無償で提供することなどを説明した。これまで、漠然とした形でしか内容を把握できなかった「.NET」だが、今年はサービスの実現に向け徐々にベールを脱いでいきそうだ。

ついに動き出す近未来の交通環境 InternetITSの実証実験始まる

2001年4月より、慶應義塾大学SFC研究所を中心として、インターネットを基盤とした高度道路交通システム(ITS)の研究プロジェクトが進められているが、その実証実験がいよいよスタートした。InternetITSプロジェクトでは自動車を中心としたモバイルインターネットを構築し、インターネットと融合された高度なITSサービスの実現を目指している。

今回の実証実験では以下の3点が行われている。

1. 高性能実験車

InternetITSの将来像を模索するために製作されたコンセプトカー。

2. 名古屋地区実証実験

名古屋地区を走行するタクシー総数の約4分の1にあたる約1600台から情報を収集し、渋滞情報を生成するとともに、乗客に

観光情報など、位置に基づく情報を提供。

3. 首都圏地区実証実験

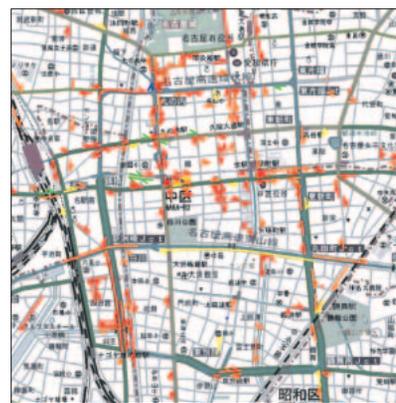
ガソリンスタンドや駐車場など自動車にかかわる電子商取引の実験。

特に名古屋地区の実験のようすはインターネットを経由して誰もが参照できる(要登録)ほか、2月25日に名古屋の産業技術記念館で開催される「愛知県ITS推進協議会のITSフォーラム」では、インターネットタクシーを体験できる(有料)だけでなく、高性能実験車を実際に見ることもできる。興味のある人は訪れてみるといいだろう。

(奈良先端科学技術大学院大学情報科学センター教授 砂原秀樹)

Jump www.InternetITS.org
(InternetITSプロジェクト)

Jump www.pref.aichi.jp/joho/ITS/
(愛知県ITS推進協議会のITSフォーラム)



名古屋の実験での渋滞情報画面。速度のほか、空車が貨走中か、サイドブレーキを引いているか否かの情報を利用してより正確な交通情報を表示している



高性能実験車の車内

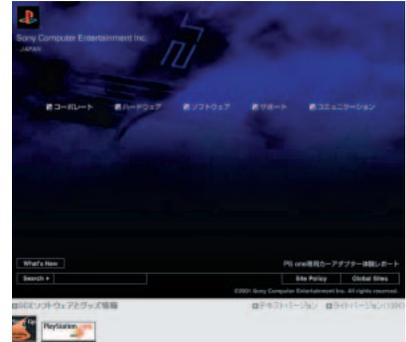
新時代の「家電OS」をめぐる競争 SCEI、IBM、東芝が新OSの共同開発に合意

ソニー・コンピュータエンタテインメント(SCEI)と東芝、米IBMの3社は、2005年をめどに新しいOSを共同開発することで基本合意した。このOSはいわゆる情報家電と呼ばれる製品をターゲットにしたもので、完成後は仕様を他社にも公開し、家電分野の標準的なOSとなることを目指しているという。この3社は2001年の3月に、現在のCPUの数百倍の処理能力とネットワーク機能を持つ次世代CPUの共同開発に着手しているが、これに加えて具体的にそうしたCPUが搭載される機器を制御するOSの開発も手がけることで、主導権を握るのが目的だと思われる。

こうしたOSが開発される背景には、高速インフラとデジタル家電の普及が挙げられる。一般家庭にもADSLやFTTHといった高速なインフラが導入され、一方でデジタルテレビやハードディスクレコーダーの

ように、大容量のデジタルデータを扱う製品も続々と家庭内に入り込んできている。こうした新しいインフラや機器に対応して、機器間を相互に接続していくためには、家電といえども高度なOSが必要となる。

このようなネットワーク機能を持ち、相互に連携する家電、いわゆる“情報家電”の実現に向けて、家電メーカーやコンピュータメーカーは激しい開発競争を繰り広げている。昨年の11月には、マイクロソフトがこうした情報家電向けの環境を構築する「eHome」の構想を発表し、1月にアメリカで開催されたCESでも大々的に展示されている。OSが搭載される機器の多さやマーケットの規模を考えると、今後はこうした情報家電向けのOSが新たな戦いの場となっていこう。



- Jump www.scei.co.jp
(ソニー・コンピュータエンタテインメント)
- Jump www.ibm.co.jp
(日本アイ・ビー・エム)
- Jump www.toshiba.co.jp
(東芝)

広告メールのタイトルに「!広告!」の表記を義務付け 経済産業省が特定商取引法の改正に向けて動き出す



Jump www.nissankyo.or.jp
(日本産業協会)

経済産業省(経産省)は1月10日、スパムメールへの対策として、メールのサブジェクト(件名)に「!広告!」と表示することを義務付ける、特定商取引法の施行規則を改正する省令を公布した。この省令は、2月1日より施行される。

今回の改正では、広告メールを送信する場合には、以下の3点を送信者側の義務としている。

- ・ 広告メール送信者のメールアドレスを明記する
- ・ メールサブジェクトに「!広告!」という文字列を入れる。あわせて、メールの本文にも広告である旨を表示する
- ・ 受信者がメールの受け取りを希望しない場合に、その連絡を行う方法を表示する。連絡方法を設定しない場合には、件

名欄に「!連絡方法無!」と表示する

今回の改正は、これまでの表示義務をさらに強化するとともに、受信者が迷惑メールを拒否する手段を向上させている。具体的には、サブジェクトに「!広告!」とあるメールをフィルタリングするサービスなどの登場が期待される。また、違反した事業者には、業務停止命令などの行政処分や、悪質なものは罰則が適用される。表示義務に違反した迷惑メールを受け取った場合、財団法人日本産業協会が情報提供窓口となるほか、各地の消費生活センターにも相談窓口を設けている。

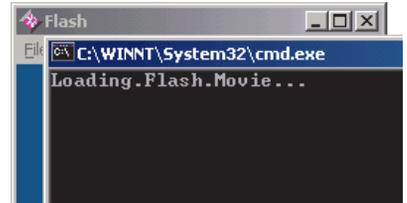
さらに、経産省では消費者が受け取りを拒否した場合、事業者がそのユーザーに対して、メールの再送信を禁止する改正案を第154通常国会に提案する予定だ。

メール以外にも広がるウイルス感染ルート Flash や.NET を狙う新ウイルス

ソフォス株式会社は1月9日、Shockwave Flashに感染するウイルス「SWF/LFM-92」を発見したと発表した。Flashに感染するウイルスとしては、世界ではじめての例となる。また同日に米シマンテックが、マイクロソフトの「.NET」を対象としたウイルス「W32.Donut」を発見したと報告した。いずれのウイルスも、まだ一般への感染は確認されていないが、極めて高い感染能力を持っているウイルスであるため、両社はウイルス対策ソフトやウイルスパターンファイルの更新を呼びかけている。このほかにも昨年12月4日には、電子メールに加えてICQを感染ルートとするウイルス「W32/Gonar」の発生が確認されるなど、ウイルスプログラムが対象とするアプリケーションの拡大傾向が顕著なものとなっている。

これまで、ウイルスのターゲットはおもに電子メールやファイルなど、基本的には実行ファイルを意図的に開かない限りは感染することはないケースがほとんどだった。しかし、昨年末に流行したウイルス「W32/Badtrans」のように、HTMLメールをプレビューするだけでウイルスに感染するといった、高度な仕組みのウイルスが急増している。

利用者の多いアプリケーションほど、ウイルス制作者のターゲットになりやすい。昨年はおもに、マイクロソフトのアウトLOOKをターゲットとしたウイルスが目立っていた。今回、ウェブで広く使われているFlashや、今後のウィンドウズ環境の基盤となる.NETに感染するウイルスが登場したことで、今後はメールだけでなく、より広範なウイルスへの備えが必要だろう。



Jump www.sophos.co.jp
(ソフォス)
Jump www.symantec.com
(シマンテック)



実現に向けて動き出したウェブサービス 電通国際情報サービスとIBMがウェブサービスで提携



Jump www.isid.co.jp
(電通国際情報サービス)
Jump www.ibm.co.jp
(日本アイ・ビー・エム)

電通国際情報サービス(以下、ISiD)と日本アイ・ビー・エム(以下、日本IBM)は2001年12月28日、ウェブサービスのソリューションにおいて協業することを発表した。今回の協業は、日本IBMのアプリケーションサーバー製品「WebSphere Application Server」をベースに、電子調達や課金といった各種のウェブサービスの構築を、両社が共同で行うものとしている。具体的には、ISiD内にウェブサービステクノロジーセンターを設置し、WebSphereならびにその関連製品の環境を構築し、技術的な検証を行うことが発表されている。また、両社が共同で、他社製品で構築されたウェブサービスを利用したアプリケーションとの相互接続性を検証するなど、ウェブサービスを実際の業務で利用する際に必要となる、より現実的な問題の解決に

向けても動き出しているのが特徴だ。

ウェブサービスは、UDDIやSOAPといった共通プロトコルを利用することで、ネットワーク上のサービスの連携を図り、大規模な分散型のシステムを構築しようとするもので、今後の企業向けシステム構築の主流として期待されている。IBMのほかにもマイクロソフトやサン、HPといった大手企業もこの構想に賛同しており、現在もプロトコルやフォーマットの策定が進んでいる一方で、各社ともウェブサービスを実現する製品の開発競争が進んでいる。

今回、企業向けの大規模なシステム開発やコンサルテーションを行ってきたISiDが、ウェブサービス対応製品として先行している日本IBMと提携したことにより、具体的なウェブサービスの導入例が増えるものと期待される。



独自フォーマットで安全なコンテンツ配信

日本テレコムが映像配信プラットフォーム「J-VISION」の試験を開始

日本テレコムは、独自の動画圧縮再生技術を使ったブロードバンドコンテンツ配信サービス「J-VISION」を1月10日に発表した。圧縮再生技術は、マリーンシステムアソシエイツと共同開発によるもので、ADSLの帯域でもフルスクリーン映像が再生できる。すでに試験サービスが始まっており、本サービスの開始は4月1日を予定している。

J-VISIONは、受信したデータを順次再生する「ストリーム技術」を使っているが、表示されたフレームはキャッシュされない。これにより、ユーザーのPCにファイルが残らないので、著作権的に高い安全性の高いコンテンツ配信が行える。

映像と音声を合わせたビットレートは500kbpsで、現在のADSL回線でも無理のない転送が可能だ。また、ストリームの音

声と映像に割り当てる帯域を自由に設定できるため、映像を重視したエンコードができる。

サービスを提供するADSL回線は「J-DSL」と「フレッツADSL」だが、2001年の8月30日に提携を発表した「イー・アクセス」は1月15日現在では含まれていない。

将来的には、家庭用ゲーム機やSTB、3G・4G携帯電話向けの映像配信のほか、パッケージソフト販売などの多角化を予定している。

1月15日に行われた発表パーティーでは、スペシャルゲストとして映画評論家で映画監督の水野晴郎氏が招待され、映画とブロードバンドのかかわりに期待感をのぞかせた。最後に「いやあ、J-VISIONってホントにいいものですね」の名ゼリフが登場し、会場から拍手と笑いが起こった。



会場では、往年のホラーアニメ「妖怪人間ベム」などが放送されていた



水野氏は、ブロードバンドでさらに映画が家庭に溶け込む将来を楽しみと発言

photo: Watari Tokuhiro

www.j-vision.ne.jp
(J-VISION)



加速するISP業界の再編の流れ

ソニーがニフティを買収との報道、両社はこれを否定

ISPの契約シェア

ODN	7.3%
So-net	7.5%
DION	9.4%
OCN	9.4%
BIGLOBE	12.1%
@nifty	17.9%

出典：インターネット白書2001

www.so-net.ne.jp

(ソニー・コミュニケーション・ネットワーク)

www.nifty.com

(ニフティ)

再編の進むISP業界に衝撃が走った。日本経済新聞が2001年12月28日付けで、ソニーがニフティ買収に向けて、ニフティの親会社の富士通との交渉に入ったと報じたのだ。同報道は、ソニーがニフティを買収後、So-netを運営するソニーコミュニケーションネットワーク(SCN)と統合させる方向で検討しているものだった。

一方、この報道に対してソニーと富士通は同日、協業についての話し合いはあるものの、現段階ではまだなにも決定していることはないという趣旨のコメントを発表した。両社とも、なんらかの交渉に入ったことは否定していないものの、現段階ではまだ統合や合併といった具体的な話が進んでいる状況にはないようだ。

しかし、ISP業界全体として見れば、各

社が統合や提携などが大きな流れとなっているのも事実だ。2001年9月にはSCNがJustNetの全株式を取得し、将来的なサービス統合を表明している。また、今回の報道が出る直前の2001年12月25日にはPanasonic Hi-HOとDTIが、インフラをはじめとした提携を発表している。

こうした再編が進む背景には、ADSLの登場により、ISP各社には低価格で高速なサービスの提供が求められていることが挙げられる。こうしたサービスに対応するには、会員規模を大きくして、バックボーンやサポートにかかる1人あたりのコストを引き上げていくのが効果的であると考えられているためだ。その意味でも、今後はさらにISPどうしの統合や連携といった再編が進んでいくのは間違いのないだろう。



記者会見では、毛利氏の話うなずきながら聞いていた
photo:Takioka Kentaro

www.miraikan.jst.go.jp
(日本科学未来館)

www.honda.co.jp/ASIMO/
(アシモ・スペシャルサイト)

人間とロボットの共生の形を探る 日本科学未来館の解説員としてASIMOが「就職」

日本科学未来館の3階「ロボットコーナー」のインタープリター(解説員)として、ホンダが開発した人型ロボット「ASIMO」が、1月13日に“入社”した。注目の待遇だが、特別手当として電気が支給される。労働時間などの詳細は不明だが、人間ではないため労働基準法による最低賃金や労働時間の制限などは受けない。

ASIMOは、全高120cm、重量43キロの直立二足歩行が可能なロボットで、内蔵バ

ッテリーで30分前後の活動が可能。また、合成音声機能があり、50種類程度の呼びかけや挨拶、質問に対し答えられるほか、プログラムされた言葉を話せる。

入社式の後に行われた記者会見では、日本科学未来館館長の毛利衛氏と新入社員のアシモが登場した。日本科学未来館では、ロボットがより人間らしく振舞うためには、どのような動作をすればよいかを研究する。

今年のマラソン大会がグランプリ @nifty ホームページグランプリ受賞作品が決定

@nifty主催の「@nifty ホームページグランプリ2001」のグランプリ受賞作品が発表され、2001年12月26日に授賞式が行われた。応募総数は3058点。ホームページグランプリでは28作品、ブロードバンド賞で20作品がノミネートされた。

ホームページグランプリを受賞したのは、マラソンの走行履歴を競う「まる高マラソン大会」。実世界とサイバーワールドとの融合が高く評価された。インターネットマガジン賞は、Shockwaveの可能性を追求した「shockwave向上委員会」に贈られた。

今回のコンテストから新設されたブロードバンド賞は、クリエイター部門に質の高い作品が集まった。映像部門ということもあってか作者の苦勞が見受けられた。

ブロードバンド賞のクリエイター部門で第1回グランプリを受賞したのは、14歳の中学生の御手洗紘子さんが制作した「Human」。人間に憧れるロボットの鳥“フ

エニックス”と女子高生が織りなすドラマである。作品は3DCGで描かれており、3分という長い作品を制作した力量が審査員の絶賛を浴びた。

またクリエイター部門のインプレスTV賞は、自分の生まれた日のできごとをプロモーションビデオ風に仕上げた「オルゴール～What happened on my birthday?～」が受賞した。自分の出生のエピソードを母から聞いて、初めて親の気持ちが理解できたという作者の思い入れが感じられる作品だ。

コンシューマー部門のグランプリ該当作品はなかったが、「My Life」「bicycle」というふたつの作品にインプレスTV賞が贈られた。「My Life」は就職に失敗し、彼女にも振られてしまった主人公が、あることをきっかけに立ち直るといったストーリー。また「bicycle」は、ひとことで言えば一発芸の勝利。どちらの作品も審査員に「日常の驚き」をアピールしたものだ。



ブロードバンド賞クリエイター部門グランプリを受賞した「Human」

homepage.nifty.com/gp2001/@nifty
(@nifty ホームページグランプリ)

homepage.nifty.com/gp2001/broadband/
(ブロードバンド賞)

impress.tv/?im/article/nif.htm
(インプレスTVのブロードバンド賞)

フレッツ・ADSL8Mbps接続に対応の ADSL モデム内蔵ルーター登場

Jump www.ntt-east.co.jp

NTT東日本はADSLモデム内蔵のブロードバンドルーター「Web Caster 600MN」を2万4,000円で発売した。内蔵モデムはフレッツ・ADSLサービスの1.5Mbps接続と8Mbps接続の両方に対応している。また、LAN側に10BASE-T/100BASE-TXを4ポート搭載して、スイッチングHUB機能を使って接続したパソコン同士でのデータ交換も行える。ブラウザを使ってLAN設定や、DHCPサーバー機能によるIPアドレスの設定が簡単にできる。このほか、セキュリティ対策として、NAT機能やパケットフィルタリング機能を備えている。



ウィンドウズメッセンジャーに対応した ファームウェアを公開

Jump www.elecom.co.jp

エレコムは、発売中の無線ブロードバンドルーター「LD-WBBR4」の最新ファームウェアを公開した。ウィンドウズXPに標準添付している「ウィンドウズメッセンジャー」は、これまでルーター経由では動作しなかったが、このファームウェアによって、初めてルーター経由でも動作し、ビデオチャットなどができるようになった。ただし、使用できるパソコンは1台のみ。「LD-WBBR4」はIEEE802.11bに準拠した11Mbpsの無線LANアクセスポイントと10BASE-T/100BASE-TXを4ポートを搭載している。



小野伸二のファンサイトで 生ライブを公開

Jump www.so-net.ne.jp/shinji-ono/

マスパロマス大会で所属するオランダのチーム、フェイエノールトを優勝に導いた小野伸二。2002年開催の世界カップを目前に控え、さらなる活躍が期待されている。彼のファンサイト「小野信二スペシャル」では、「ライブ・フォー・サポーターズ」と題して、銀座ソニービルで行われた生ライブの様態を公開している。ワールドカップ、オランダリーグ開幕戦の感想、チームメイト、プライベートなどについて語る。また、「ファン・スタジアム」では「ヘディング編」「シュート編」「オランダ語編」など、全13回シリーズでインタビューや貴重な映像を独占放映している。信二ファンならずともサッカーファンには必見だ。



東経110度CSを使った自動蓄積放送 「ep」がスタート

Jump www.epep.jp

3月に開始される東経110度CS放送にあわせて、家電メーカー各社の動きが活発になってきている。東経110度CS放送は、ほぼ同位置にあるBS放送用の衛星と同一アンテナで受信できるのが特徴で、すでに開始されているデジタルBSとあわせて、一気にデジタル放送へのニーズが高まるものと期待されている新しいCS放送だ。

1月15日には、三洋電機が東経110度CS放送にテレビ「VIZON」を3月1日から発売すると発表した。VIZONは初の東経110度CS放送対応の機器となる。



大型ブロードバンド番組BB-stationが NECのバックアップで開局

Jump www.bb-station.co.jp

ビジー・ピーはブロードバンド時代の生活情報局「ブロードバンドメディアステーション」(以下、BB-station)の放送を2002年1月より開始した。速水けんたろう氏の「ワンバククラブ」、生島ヒロシ氏の「お手軽健康生活」など、著名なアドバイザーによる生活情報を中心とした80番組を提供する。動画などは28kbpsでエンコードされているため、アナログモデムでも番組視聴は可能だ。この番組を見るためのアプリケーションは、2001年1月以降発売のNEC製のパソコン「VALUESTAR」「LaVie」にプリインストールされる。なお、このソフトのダウンロードは未定。



伊藤忠商事がリスク実態に見合った IT 保険を販売

Jump www.eauditor.jp

伊藤忠商事株式会社は、第三者によるセキュリティ診断に基づいた保険料の算出を行うIT保険の販売を、1月9日に開始した。これにより、システムダウンやウイルス被害によるデータ損失の保証が受けられる。

ほとんどのIT保険は自己申告ベースで保険料水準を決めていたが、「eAuditor管理基準」に基づいた保険料算出を行うため、リスク実態に近づいた従来より割安な保険が提供されるとしている。

eAuditorは、企業の情報システムの信頼性を評価して、システムのセキュリティレベルなどを保証するサービスで、伊藤忠商事とデロイト・マツコンサルティングなどが共同で提供している。



ASAHI ネット、 B フレッツビジネスタイプにも対応

 www.asahi-net.or.jp

ASAHI ネットは、2001年12月20日からNTTのB フレッツ接続サービスメニューに、通信速度が最大100Mbpsの「ビジネスタイプ」に対応した「B フレッツオプションビジネスタイプ」を追加した。会員を対象にしたオプションサービスで、月額利用料金は3万5,000円。固定IPアドレスを1個利用できる。

NTT-ME の「WAKWAK ピアル」 新規公団賃貸住宅向けに提供

 www.ntt-me.co.jp

エヌ・ティ・ティ エムイーは1月9日、都市基盤整備公団の新規賃貸住宅を対象に、同社の100Mbps 高速インターネット接続サービス「WAKWAK ピアルbb-east」を月額利用料金1,750円で提供すると発表した。対象となるのは、都市基盤整備公団が平成15年度までに首都圏で提供する2万2000戸。

トラフィックの分散を目指し Iij が JPNAP 大阪に1Gbps で接続

 www.ij.ad.jp

インターネットイニシアティブ(IIJ)は1月8日、インターネット接続ポイント「JPNAP 大阪」への接続を完了した。接続帯域は1Gbps。JPNAP 大阪はインターネットマルチフィードが2001年12月31日より試行サービスを開始したギガビットクラスの商用IXサービス。東京に一極集中化しているトラフィックの分散を考慮したネットワーク構成を提供する。

小説やアニメに登場した ロボットのデータベースを公開

 rbtmm.miraikan.jst.go.jp

日本科学未来館は、現在開催中のロボットミーム展の一環として「ロボット・ミーム・データベース」をホームページ上で公開している。これまで小説やテレビなどに登場したさまざまなロボットについて、ロボットの大きさや用途、原作の内容など約30項目のデータが掲載されている。同時に人気投票も行っている。

SANNET 利用者に オンラインストレージサービスを提供

 www.sannet.ne.jp

三菱電機ソフトウェアは2001年12月13日から、インターネット接続サービスSANNETの契約者を対象に、オンラインストレージサービスを開始した。ディスク容量は100MBで、初期費用は無料、月額利用料金は500円となっている。2月まで加入月の利用料金が無料になるキャンペーンを行っている。

ストリーミング番組中に 動画CMを挿入するサービス

 www.pasata.net

パサタは2月1日より、Jストリームと業務提携してストリーミング広告配信サービス「PaSaTa」の試験サービスを開始する。「PaSaTa」はユーザーがストリーミング番組を無料で視聴できる代わりに、利用登録情報に基づいて番組中にCMを配信するサービスで、ソニーのインターネット研究所によって開発された。

『コンビニ検診』のウェブ受付サービス 携帯電話でも心電図、血圧検査を申し込み

 www.7dream.com

セブンドリームドットコムは、愛知県診断技術振興財団が開発する「コンビニ検診」の受付サービスを「7dream.com」で1月7日から開始した。サイトから「胃がん」「糖尿病」など19種類の検査項目を選ぶと、検診セットと問診票が自宅に届く。料金は1,300円から8,000円。料金の支払いは全国のセブンイレブン店頭で24時間可能だ。

国土交通省が電子入札の追加案件と 注意点を公表

 www.mlit.go.jp

国土交通省は、平成13年度に電子入札を実施する案件を100件と、電子入札システムの使用にあたっての注意点を12月28日に公表した。内訳は、一般競争入札による工事が33件、公募型指名競争入札による工事が65件、建設コンサルタント業務などが2件となっている。公表された注意点は、基本的なソフトウェアの使用上の注意だった。

AFTER CARE

2002年2月号において以下の誤りがありました。

P197 Post-INTERNET from U.S.A

「世界の次世代携帯電話回線数予測」の棒グラフで、「2.5G」と「3G」の表記が逆になっていました。

P.270 BREAKTHROUGH

誤：CDNJapan
正：CDN JAPAN

誤：「著作権管理を含むアクセス制限」

正：「不正利用防止を含むアクセス制限」

誤：【右下】横田浩氏

正：【中上】横田浩氏

誤：【中上】橋本昌明氏

正：【右下】橋本昌明氏

付録 Net Impressions

誤：アクト・クリエイション

正：アクトクリエイション

読者の皆様ならびに関係者の方々は多大なご迷惑をおかけいたしました。お詫びして訂正いたします。



日刊のニューメディア『インターネットウォッチ』から注目記事をピックアップ INTERNET Watch DIGEST

ホームページプレイヤーの端末機。赤外線センサーを内蔵し、ユーザーが近付くとスピーカーの音量が下がる。電飾は音声の周波数に応じて色が変化する。後部には電源、イーサネット、ディスプレイの各端子がある。

富士通研究所がホームページの「再生機」を開発 ユニークなピラミッド型インターネット端末

[Reported by nagasawa@impress.co.jp]

【1月10日】富士通研究所は、ホームページをラジオのように音声で自動的に「再生」する「ホームページプレイヤー」を開発した。ページ上のテキストを合成音声で読み上げるほか、Windows Media PlayerやReal Player用の音声ファイルにも対応する。

ホームページプレイヤーは、あらかじめ再生するページのジャンルや順序をURLで登録しておく編成サーバーと、このリストに基づいてページを自動再生する端末（P282写真）から構成されている。目を引くのは、底面の一辺が25センチほどのピラミッド型をしている端末のほうだ。頂上部分にはマイクが内蔵され、側面部分にスピーカーや電飾、ボリュームノブ、再生/早送り/巻き戻しボタンなどが付いている。操作は音声で行うことができ、ユーザーが話しかけることで聴きたい情報のジャンルの指定や早送り/巻き戻し操作ができる。

実は同社はすでに2000年9月、ホームページの「再生機」というコンセプトを発表しており、今回の製品はその改良版にあたるものだ。当初は既存のホームページをそのまま再生できるよう、ページの中から重要な部分を抽出する機能などを盛り込んでいたが、今回発表されたものでは省かれた。これは、視覚的に作られている通常のページを音声で再生することには無理が

あり、テキスト系のような「シンプルなページ」をあらかじめ用意しておく方法が採用されたためだ。ホームページプレイヤー専用のページを別途作成する必要はあるが、「（一般的なHTML技術で）手軽に制作できるホームページで、テレビやラジオのような情報提供ができる」というメリットには変わりないという。一方ユーザーにとっては、「常時接続を最大限に活用して、好みの情報を“ながら”で得られる」としている。

非PCのネット端末としての新しいかたちを模索しているホームページプレイヤーだが、今のところはコスト面がネックになりそうだ。端末自体はデスクトップPCとほぼ同じパーツを使用しているとしているが、特殊なデザインのエレメントやスイッチを採用している分、どうしても同等のPCより高価になってしまわざるを得ないのだ。実際のところ、OSにはウィンドウズが使われており、その上で自動再生/音声合成の専用アプリケーションソフトが走っているかたちとなっていた。ディスプレイを接続すればページを表示することも可能だ。

このような課題もあり、富士通ではまず、ホームページプレイヤーを行政機関のソリューションとして展開する考えだ。市役所や病院の待合室などの公共スペースに端末機を設置し、自治体からのお知らせや広

報ページを再生するといった利用を想定している。すでに同社では、電子行政ソリューションを紹介するショールームでホームページプレイヤーを展示しているが、これを見学したある自治体の関係者からは「防災情報の放送に使えないか」といったような提案も受けているという。

一方、コスト的にまだ課題が残っている家庭向けとしては、専用アプリケーションによりPC上で機能を代用することが可能だ。また、車載機や福祉分野など、ユーザーの利用環境に制約がある状況では、音声による情報提供が強みを発揮するとしている。今回発表された専用端末機以外にも、ITS（高度道路交通システム）分野での開発研究が進められている。

とはいえ、やはり最終的に目指すのは、家庭などで手軽に設置できるような製品であり、ゆくゆくは「ロボットのようなものになりたい」（富士通研究所計測制御システム研究部 鎌田徹氏）という。たとえば、家庭の居間に設置されたホームページプレイヤーが家族の話題を判別して、それにふさわしいコンテンツを自動的に再生するような製品が目標だ。

Jump pr.fujitsu.com/jp/news/2001/12/14.html

著名な数学者のかかわりを謳ったZeosync社の発表だったが、その信憑性に疑問の声が上がっている。



「100分の1データ圧縮」のZeoSync社に虚偽記載の疑惑発覚

世界中のメディアが報じた新技術に疑問の声

[Reported by taiga@scientist.com]

【1月15日】1月8日に米国フロリダ州パームビーチにあるベンチャー企業ZeoSync社が「100分の1程度にまでランダムなデータを圧縮できる情報圧縮技術を開発した」との発表はロイターなどの通信社だけでなく、世界中の多くのハイテクニュースサイトが報道し、日本にも伝わってきた。情報が流れてから1週間が経とうとしているが、このような圧縮が可能なのか、ネット上ではいまだ活発に議論されている。

ZeoSync社のプレスリリースが発表された当時、同社がホームページで配布していた「Scientific Organizational Chart」(同社の科学チームの組織図)には9人の数学者が列挙されていた。その中にはワシントン大学教授で数論の暗号理論への応用で高名なニール・コブリッツ教授やMIT教授で組み合わせ論の権威であるリチャード・スタンレー教授、さらに数学のノーベル賞とも言われるフィールズ賞受賞者であるカリフォルニア大学パークリー校名誉教授のステーブ・スミール教授などがZeoSync社の「Team」の一員として紹介されていた。このことは多くのニュースサイトがZeoSync社の技術の将来性に期待を持たせるための根拠となった。

しかし、奇妙なことに本誌が連絡を取ることのできた5人の数学者のうち4人は、ZeoSync社とこれまで共同研究を行った

ことは一度もないと言う。たとえばニール・コブリッツ教授は「彼らが私の名前を載せる前も後も、その会社とコンタクトを取ったことは一度もない。誰かがメールで彼らの主張していることと、私の名前が載っていることを知らせてくれるまではその会社の存在すら知らなかった」と答えている。リチャード・スタンレー教授も「この会社について聞いたことはなく、いっさい関係がない」と回答した。

一方で、たとえばZeoSync社は、数論の専門家として名前が載せられたアロン・マイヤーウィッツ博士に対してコンサルティングの契約を持ちかけ、博士もそれに同意したがその後はいっさい連絡などはなかったと言う。突然1月7日にプレスリリースが発表されて、自分の名前も掲載されていることに気付いたマイヤーウィッツ博士はZeoSync社との関係を絶つことに決め、名前の削除を求めたと言う。

また、報道でZeoSync社の信憑性を高める役割を果たしているフィールズ賞受賞者のステーブ・スミール教授は、現在ZeoSync社に滞在しているようだ。しかし彼もまた「(彼がZeoSync社に到着する)1月10日以前は、私とZeoSync社との関係は、ZeoSync社を訪問するかどうかに関する交渉に限定されていた」とコメントしており、ZeoSync社が主張しているような「共

同研究」が行われていた形跡はない。

興味深いことに1月12日ごろ、ZeoSync社の掲載している科学チーム組織図は更新され、チームの一員として挙げられている数学者は2人になり、9人から大幅に減らされた。これは自分の名前が勝手に掲載されていることに抗議した数学者たちが取り消しを求めたためだ。

このような事実に関してZeoSync社にコメントを求めたが、今日までに返答を得られなかった。ZeoSync社の技術がどのようなものかは分からないが、それが高名な数学者たちの検証によって裏付けられているとの印象は間違っているようだ。

また、ZeoSync社は現在も同社に対する投資を集めており、「Accredited Investor」であるなら誰でもZeoSync社に投資できる仕組みを設け、ホームページで募集している。著名な数学者の名前が挙げられたこと、それがメディアで報じられたこと、これらの投資募集がどのように関連して行くかは今後の調査を待たなければ明らかにはならないだろう。しかし、インターネットバブルの時期には高度にブラックボックス化した技術のために十分な科学的な検証ができないまま多大のリスクマネーが消えていったという事例も報告されている。技術に投資をする側も、報道する側にも十分な注意が求められている。

Jump www.zeosync.com

『INTERNET Watch』ウェブサイト(無料)
Jump www.watch.impress.co.jp/internet/

有料メールサービス(1,800円/6か月)
Jump www.ips.co.jp/watch/info_in.htm

注目のサービス&製品をレビュー

Service & Products Selection

データベースとの連動でウェブサイトの運営コストを下げる エイジアが「WEB CAS formulator」を発売



タスクID	タスク名	優先度	進捗率	完了日	担当者	ステータス
01	基本	高	100%	2002/03/01	山田	完了
02	検索	中	80%	2002/03/05	田中	進行中
03	編集	低	20%	2002/03/10	佐藤	待機
04	連絡先管理	高	50%	2002/03/08	鈴木	進行中

集計したデータは、HTMLのほかExcel形式で出力



制作したブロックはすぐにプレビュー可能だ

景 景気の後退により、IT関連も含めたコストの削減が急務になっている。ウェブサイトの運営や管理も例外ではない。そんな中、エイジアは、データベースと連動させてリアルタイムにデータを集計できる企業向けウェブサイト管理ツール「WEB CAS formulator」を2月5日に発売する。価格は65万円だが、2002年3月31日までのキャンペーン価格は45万円となっている。

WEB CAS formulatorの特徴はオブジェクト指向のソフトウェアなので、コンポーネントを組み合わせることによって、短時間で機能をカスタマイズできることだ。また、WEB CAS formulatorはJava ServletとXMLで記述されているため、サーバーOSやウェブサーバーの種類に依存しない。動作が確認されているウェブサーバーはIIS 4.0(Internet Information Server)以上とApache 1.3以上など。データベースは、OracleやマイクロソフトSQL Server7.0以上などに対応している。なお、共用ホスティングサービスのように1台のサーバーを共有している場合は対応できないケースが多い。

ウェブページ制作のコストを下げる

このソフトウェアでは、作業を「タスク」という単位で管理する。タスクは、データベースに入力されたデータから自動的に生成されるページのこと、それぞれのタスクは「ブロック」という単位で構成される。ブロックは「ラジオボタン」や「入力フ

ォーム」など、ページを構成するパーツのことで、これらを組み合わせて1つのタスクを完成させる。また、HTMLの記述用のブロックもあるため、ヘッダーなどのソースを貼り付けることで既存のページとデザインの整合性を取れる。各ブロックは「フォームデザイン機能」により、HTMLの知識がなくてもデザインが可能のため、これまでCGIを用いて制作していたアンケートページなどを、特別な知識がなくても作成できるわけだ。

ブロックに入力したデータは、データベースと組み合わせることで、リアルタイムに集計される。このときに出力されるデータは、Excelの「ピボットテーブル」に対応した形式で、たとえば「女性のうち、Q1にAと答えた人数」のように複数の条件を指定して算出する“クロス集計”を特別なアプリケーションを用意せずに行える。

このほか、「テンプレート機能」により、Q & A やプレスリリース、求人情報など、デザインが決まっているウェブページを効率よく管理できる。このとき、指定したフォルダーより下位のウェブページは、上位フォルダーと同じテンプレートが適用されるので、デザインを間違える危険性も少なくなる。制作したウェブページはプレビューできるので、印刷したものを検討してからのアップロードも可能だ。

さらに、「タスク管理」を使うことで、ページの公開日や公開終了日をアップロード前に指定できる。このように、処理を自動化することで人為的ミスのない更新

が可能になる。管理画面では、タスクの状態が「編集中」「予約済」「公開中」で分類され、進行状況が一目でわかる。

メールと連動したマーケティング

同社のパーソナライズメール配信システムの「WEB CAS e-mail」と組み合わせると、顧客リストのうちアンケートに答えた

人を抽出して電子メールを送信するなど、より高度なマーケティング活動が行える。

専任のスタッフを置かなくても、こまめにサイトの更新が可能になるウェブサイト管理ツールが運営コストの削減に役立つだろう。

 webcas.azia.jp
(株式会社エイジア)

電子メールを使った社内情報の漏洩を防ぐ 住友金属システムソリューションズが「GRADIAN WALL」をバージョンアップ

電子メールは気軽に送受信できるため、情報漏洩の窓口になりやすい。この問題に対応するソフトウェアが「GRADIAN WALL」だ。これは、社内LANから送信される電子メールと添付ファイルをサーバー側でフィルタリングするソフトで、住友金属システムソリューションズが12月21日に発売した。価格はユーザーライセンス制、50ユーザーの場合はライセンス料が120万円で、1年間の保守料金が18万円。対応OSは「Solaris2.6」「Solaris7」「Solaris8」で、対応ハードウェアはSun SPARCサーバーおよび互換機。

GRADIAN WALLは「sendmail」と組み合わせて使う。電子メールの本文や添付ファイルの内容を解析して不適当な電子メールの送信を差し止めることにより、社内の機密情報や顧客情報の漏洩を防ぐ。新しいバージョンでは、テープなどの外部メディアを使ったバックアップやリストアーに対応した。電子メールの保存量はストレージの容量に依存するため、これまでより大量の電子メールに対応している。

基本的な動作は、社内LANから送信される電子メールの本文と添付ファイルをすべてサーバーに保存する。このとき、管理者権限があるユーザーは、差出人や宛て先、送信日などを指定して過去に送信された電子メールの検索、閲覧が可能だ。

問題のあるメールは差し止め

また、電子メールの差出人や宛て先、サイズなどを条件にして、電子メールの配送を制御できる。たとえば、「新入社員が送信する電子メールは、上司が確認したあとで配送する」「1Mバイト以上の電子メールは送信しない」などの設定が可能だ。

さらに、送信される電子メールの内容のチェックも可能で、「契約書」「社外秘」などのキーワードを含む電子メールの送信を差し止められる。ほかに、チェック条件に添付ファイルの拡張子とMIMEタイプの指定もできる。これによって、「MIMEタイプがaudioのファイル」や「拡張子がEXEの実行ファイル」が添付されている場合に送信を中止する、といった設定が可能だ。添付ファイルがマイクロソフトのWordやExcelなどのファイルの場合は、添付ファイルの内容もチェック対象に加えられる。なお、これらの管理作業はブラウザ上で行えるようになっている。

自社の情報を守るために、また、故意の情報漏洩のほか「トロイの木馬」などのウイルスを仕掛けられた場合などに備えて、このようなソフトが必須と言えるだろう。

 www.smisol.co.jp
(株式会社住友金属システムソリューションズ)



日付	時刻	送信元	件名	サイズ
2001/12/12	16:44	"住友金属" <shimizu@smisol.co.jp> 大友 隆雄 <ryo@smisol.co.jp>	Wed 12 Dec 2001 16:44:00 shimizu@smisol.co.jp	841
2001/12/12	16:55	"住友金属" <shimizu@smisol.co.jp> 藤本 隆雄 <ryo@smisol.co.jp>	Wed 12 Dec 2001 16:55:00 shimizu@smisol.co.jp	89,204B
2001/12/12	16:56	"住友金属" <shimizu@smisol.co.jp> 藤本 隆雄 <ryo@smisol.co.jp>	Wed 12 Dec 2001 16:56:47:000 shimizu@smisol.co.jp	89,214B

保存メールの管理画面。過去に送信された電子メールを確認できる



[インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ] ご利用上の注意

このPDFファイルは、株式会社インプレスR&D(株式会社インプレスから分割)が1994年～2006年まで発行した月刊誌『インターネットマガジン』の誌面をPDF化し、「インターネットマガジン バックナンバーアーカイブ」として以下のウェブサイト「All-in-One INTERNET magazine 2.0」で公開しているものです。

<http://i.impressRD.jp/bn>

このファイルをご利用いただくにあたり、下記の注意事項を必ずお読みください。

- 記載されている内容(技術解説、URL、団体・企業名、商品名、価格、プレゼント募集、アンケートなど)は発行当時のものです。
- 収録されている内容は著作権法上の保護を受けています。著作権はそれぞれの記事の著作者(執筆者、写真の撮影者、イラストの作成者、編集部など)が保持しています。
- 著作者から許諾が得られなかった著作物は収録されていない場合があります。
- このファイルやその内容を改変したり、商用を目的として再利用することはできません。あくまで個人や企業の非商用利用での閲覧、複製、送信に限られます。
- 収録されている内容を何らかの媒体に引用としてご利用する際は、出典として媒体名および月号、該当ページ番号、発行元(株式会社インプレス R&D)、コピーライトなどの情報をご明記ください。
- オリジナルの雑誌の発行時点では、株式会社インプレス R&D(当時は株式会社インプレス)と著作権者は内容が正確なものであるように最大限に努めましたが、すべての情報が完全に正確であることは保証できません。このファイルの内容に起因する直接のおよび間接的な損害に対して、一切の責任を負いません。お客様個人の責任においてご利用ください。

このファイルに関するお問い合わせ先

株式会社インプレスR&D

All-in-One INTERNET magazine 編集部

im-info@impress.co.jp